

CIR(国際交流員)について

- ・高い日本語能力(N2以上)を有する人材を選考し、近年では、**インバウンド対策**や**海外販路開拓**、**多文化共生等**の業務に従事するなど、地域の国際交流の幅広い分野で活躍(平成30年度:257自治体等が任用、39か国、472人)
- ・「主に国際経済交流分野で外国人材を活用したい地方公共団体」と「その分野の業務に関心がある応募者」とのマッチングに配慮したあっせん対応を今年度から開始するなど、**インバウンドや海外販路開拓等に従事するCIRの活用を促進**



外国人観光客を案内するフランス人CIR
(群馬県富岡市)

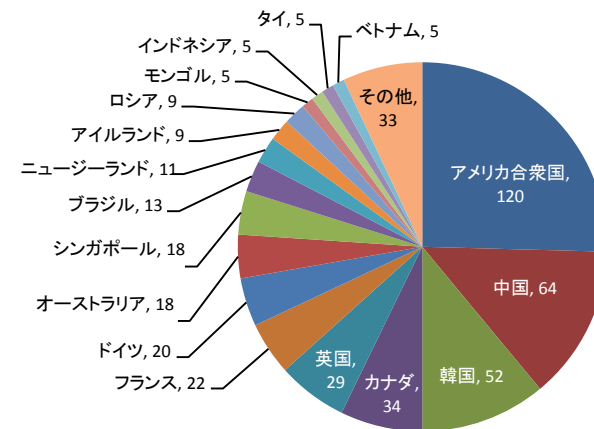


海外の旅行会社との商談会に臨むカナダ人CIR
(兵庫県豊岡市)



窓口で外国人住民へ説明するアメリカ人CIR
(広島県福山市)

<JET-CIRの国別参加状況(H30)>



SEA(スポーツ国際交流員)について

- ・スポーツを通じた国際交流活動に従事するSEAについて、東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催に係るホストタウン事業での活用を促進

(平成30年度:秋田県-フィジー(ラグビー)、山形県長井市-タンザニア(陸上)、滋賀県米原市-ニュージーランド(フィールドホッケー)、京都府京丹波町-ニュージーランド(フィールドホッケー)、佐賀県-フィジー(ラグビー)、大分県-ニュージーランド(フィールドホッケー))

ALT(外国語指導助手)について

- ・小学校・中学校・高等学校の外国語活動や外国語科の授業等で活躍(平成30年度:993自治体等が任用、30か国、5,044人)
- ・新学習指導要領の実施(小学校は平成32年度より、中学校は平成33年度より全面実施。高等学校は平成34年度より年次進行で実施。)を踏まえ、JET-ALTの更なる活用を促進

国際交流員(CIR)とは

「JETプログラム 国際交流員 (CIR) 活用事例集2018」
(作成:自治体国際化協会)より抜粋

国際交流員 (CIR : Coordinator for International Relations) は、地方公共団体の国際交流担当部署等で所属長の指示を受け、主に国際交流活動に関する職務に従事します。



北海道 東川町立中学校でインドネシアの楽器を紹介する CIR

【配属先】

国際関係担当部署 (国際課、国際経済課、海外プロモーション課、商工観光課等)

【職務内容】

- ①任用団体の国際交流関係事務の補助 (外国語刊行物等の編集・翻訳・監修、国際経済交流事業を含む国際交流事業の企画・立案及び実施に当たっての協力・助言、外国からの訪問客の接遇、イベント等の際の通訳等)
- ②任用団体の職員、地域住民に対する外国語教室または異文化理解講座等への協力
- ③地域の民間国際交流団体の事業活動に対する助言、参画
- ④地域住民の異文化理解のための交流活動 (学校訪問を含む) 及び外国人住民の生活支援活動への協力等

観光インバウンド戦略など経済交流のサポーターとして

自治体の観光情報の多言語化や HP や SNS を活用した情報発信、外国人目線による観光パンフレット・ポスターの作成サポートなど幅広く力を発揮します。

多文化共生推進のために

CIR の魅力はなんといっても、日常会話からビジネスまでこなす日本語能力の高さです。翻訳・通訳に対応し、地域の外国人住民の環境整備にも力を発揮します。また、地域住民や職員を対象とした語学講座や料理教室等を通じて、異文化理解の推進を図ります。



京都市京田辺市
伝統行事「二月堂竹送り」に参加するイギリスからの CIR



静岡県伊豆の国市
家庭教育講座「教えてモンゴルの子育てとおやつ作り」



兵庫県
知事の通訳をする韓国の CIR

多文化共生

県費負担留学生の心のよりどころとして

ヨシムラ・マルセロ・トモアキ 孫 肖
シャーホフ・スタニスラフ ダーサリ・ラメーシュ

ヨシムラ・マルセロ・トモアキ：ブラジル・サンパウロ州出身。
孫 肖(ソン・ショウ)：中国遼寧省出身。
シャーホフ・スタニスラフ：ロシア・チェリヤビンスク州出身。
ダーサリ・ラメーシュ：インド・アンドラプラデシュ州出身。

富山県

面積：4,247.61 平方
キロメートル
人口：1,050,770 人(平成 30 年 7 月現在)
著名な観光地：立山、黒部峡谷、五箇山合掌造集落
特産品：プリ、ホタルイカ、シロエビ、ます寿司
外国人宿泊者数：237,720 人(平成 29 年)



県の国際交流・多文化共生にかかせない CIR の存在

富山県では、平成元年(1989年)に英語圏 CIR を任用開始して以来、30年の活用実績があります。現在は、米国オレゴン州、ブラジル・サンパウロ州、中国遼寧省、ロシア沿海地方、インド・アンドラプラデシュ州などと友好交流関係にあります。それらの国を含む6か国7名を CIR として任用しています。

各 CIR には、各国・地域との国際交流事業において、事業計画の立案から実施、各政府・団体との連絡調整に至るまで、全てにおいて主体的に参加してもらっています。当該国・地域の出身であるからこそ、日本人ではなかなか理解できない習慣や考え方の違いがわかり、現地の人脈等も生かして、より強固な友好関係を築くことができると期待しています。

具体的な業務内容としては、各国・地域との国際交流事業のほか、県の魅力を各国・地域の方々に伝えるために、SNS や各国大使館・領事館等のホームページ等を活用して、県の観光名所やイベント情報について発信しています。

また、県職員や県民向けに語学講座を行うとともに、学校等での異文化理解講座も担当し、各国の言語や文化を広く県民に紹介しています。近年では高校教員向けの指導者研修でも講師を務めるなど、県の国際教育にも貢献しています。

このほか、週に1回勤務する(公財)とやま国際センターでは、県内在住外国人のために各国の言語で生活相談を行っており、必要に応じて関係機関との連絡調整を行い、問題解決の手助けをしています。その国の文化や背景を知らないことがあるため、多文化共生の観点においても、CIR の果たす役割は大きいと言えます。



県費負担留学生の相談に対応するブラジル人 CIR (左)

留学生が安心して暮らせる毎日を支える CIR

県は、ブラジル・サンパウロ州、中国遼寧省、ロシア沿海地方、インド・アンドラプラデシュ州から県内の大学に県費負担留学生を迎えており、CIR が県費負担留学生の来県準備から帰国まで、生活相談を担当しています。空港に出迎えに行き、インターネット接続やスマートフォンの手配、身の回りのものの買い物などを支援することから始まります。スーパーマーケットやドラッグストアなどが分かる周辺の地図を作成するなどして、新生活のスタートに当たり困らないよう工夫しています。県費負担留学生はある程度日本語ができるものの、大学や役所での様々な事務手続など、外国人にとって理解しにくい場面では支援を必要とすることが多いです。県費負担留学生が病気になったときには、日本語で症状を伝えたり、医師の話す日本語の意味を理解したりすることができないこともあり、通訳として付き添うこともあります。

CIR は日本語能力が高く、日本での留学経験もある場合が多いので、県費負担留学生からは「自分たちの気持ちに寄り添って相談にのってくれる存在」として頼られています。県費負担留学生が週に1回国際課へ来た際に、何か困ったことはないか、CIR が1週間の様子を確認し、県費負担留学生の質問に答えているほか、SNS を利用して、CIR、県費負担留学生、技術研修員等のグループを作り、いつでも相談し合える環境を整えています。

このような強固で良好な関係を築くことによって、CIR が実行委員を務める国際交流イベント「JET 世界まつり」の運営に県費負担留学生にも協力してもらったりなど、県における国際交流や多文化共生の推進に大いに役立っています。



県費負担留学生の相談に対応するロシア人 CIR (右)

市内在住ベトナム人を対象とした情報発信

レー・ガン・ハー

ベトナム・ハノイ出身。大学で日本語を専攻。大学時代に日本語・日本文化研修生として1年間の広島大学留学を経験した。ハノイで、人材紹介会社に勤務後、平成29年7月末から千葉県松戸市に任用され、経済振興部文化観光国際課に配属される。

ベトナム人住民の急増を受け任用

松戸市の外国人登録者数は、平成30年(2018年)5月末日現在、16,133人であり、県内4番目です。国籍別では、1位が中国(6,836人)、2位がベトナム(2,231人)、3位がフィリピン(1,773人)であり、韓国、ネパールと続いています。ベトナム人は、5年間で4倍となっており、ネパール人とともに急激に増えている外国人です。このような状況で、在住外国人に関する施策(多文化共生施策)と東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催を契機とした訪日外国人誘致施策にベトナム人目線でアドバイス・サポートをしてもらうために、平成29年7月末から、ベトナム人CIRを1名任用しました。

生活情報を新たにベトナム語で提供

ベトナム人CIRは、主に情報発信業務、市民交流業務、通訳・翻訳業務などを行っています。外国人向けの情報発信は、今まで市ウェブサイトの自動翻訳機能に頼っていましたが、これだけでは外国人にとって分かりやすい情報になっていませんでした。この問題を解決するために、市は、平成27年度からオーストラリア人CIRを1名任用し、外国人向けサイト「International Portal」を立ち上げ、日本語だけでなく英語による外国人にとって分かりやすい情報提供を始めました。しかしながら、市の在住外国人は、英語圏の方々だけでなく、中国人及びベトナム人が全体の半数以上を占めています。とりわけベトナム人が急増したことにより、市で生活する上で必要な情報をベトナム語で分かりやすく提供することが緊近の課題となりました。ベトナム人CIRを任用後は、従来「International Portal」英語版に加えベトナム語版も作成し、ベトナム人にとって分かりやすい記事作成・編集業務を行っています。彼女には、ベトナム語で作成した記事を英語及び日本語に翻訳してもらっています

で、オーストラリア人CIRが退任した現在でも、充実した外国人向けの情報提供ができています。オーストラリア人CIRが始めた市の広報紙へのコラム掲載も引き継いでいます。CIRが市内で体験したこと、感じたことを掲載しているこのコラムには、CIR専用のメールアドレスを記載しており、月に何度かこのコラムを読んだ読者から感想や意見などのメールが寄せられています。時には、市民が主催するイベントに招待されることもあり、少しずつですが市民の認知度が増えてきています。

またベトナム人は、Facebook利用率が高いことから、ベトナム語版の「International Portal」Facebookページを新たに立ち上げ、市内のイベント情報や生活に役立つ情報等を1週間に数回程度ベトナム語で発信しています。様々なツールを使うことにより、どうしたら在住外国人、特にベトナム人とベトナム人観光客に市の情報が伝わるか日々検討しています。

今後は、ベトナム人CIRの提案により、在住ベトナム人・ベトナム人観光客向けブログ(ベトナム語)の作成を予定しています。

様々な機会をとらえベトナムの文化を紹介

市民交流業務では、年に1回市内で開催している「国際文化祭」において、参加した市民にベトナムの文化紹介等を行いました。この他にも、市内英語サークルやシティガイド勉強会でもベトナムの文化紹介をしています。

さらに市内大学生と日本語学校在学中のベトナム人と交流するワークショップにも参加するなど、市民との交流にも積極的です。今後は、ベトナムの料理教室を自ら企画して行う予定にしています。

最後に訪日外国人観光客誘致に対する取組についてですが、ターゲット国の一つとしてベトナムからの観光客誘致に向けた施策を展開していく予定です。施策立案のために実施している、市内の日本語

千葉県 松戸市

面積：61.38 平方キロメートル
人口：490,256 人
(平成 30 年 6 月 1 日現在)
特産品：梨・ねぎ
主要な観光地：戸定邸、矢切の渡し等



学校在学中のベトナム人を対象としたモニターツアーにおいて、CIRは企画へのアドバイスやツアー中の通訳をしています。

また、市内大学の観光学科の授業においては、学生がテーマごとに企画するベトナム人向けのツアー造成をするプログラムのアドバイザーを行うなど、観光人材の育成に一役買っています。

ベトナム人CIRならではの今後の取組

今後は、市内に暮らすベトナム人をはじめとした市民との交流をさらに進めるほか、ベトナム人観光客を誘致するため、現地の旅行会社や企業との連絡調整と一緒に取り組んでいきます。



シティガイドの勉強会でベトナムの文化紹介をするCIR(中央)



ベトナム人留学生対象のモニターツアーで 案内をするCIR(前列左)



平成30年7月中の本市内でのイベント情報をベトナム語で記載したFacebookページ

一家で来日！家族ぐるみで国際交流

サンジドルジ・ムフジャルガル

モンゴル・ウランバートル市出身。大学で日本語の教職課程を取得。大学卒業後、鳥取県 CIR、在モンゴル日本大使館にて勤務後、平成 30 年 1 月から伊豆の国市に任用され、市長戦略部市長公室に配属される。日本語能力試験 1 級。夫と子ども 4 人と来日。

都市交流事業をきっかけとした CIR の任用

伊豆の国市は、平成 27 年（2015 年）8 月にモンゴル・ウランバートル市ソングノハイルハン区と「都市交流に関する覚書」を締結し、モンゴルとの交流がスタートしましたが、文化や習慣、言語の違いなどから、交流を進めていく上で大きな壁を感じておりました。どうしたらこの壁を取り除くことができるかと検討していく中で、モンゴルを熟知した人材に手伝ってもらうことが最適であると判断し、平成 28 年 8 月から CIR の任用を開始しました。

CIR を任用したことをきっかけに、モンゴルとの交流をさらに進めるべく、平成 29 年 2 月に「モンゴル国柔道競技代表選手の 2020 年東京オリンピック・パラリンピック事前キャンプに関する覚書」を締結しました。

CIR の活動で深まる市民交流

CIR の主な業務としては、都市交流事業の企画・立案、モンゴルからの訪問団の対応や通訳、市民へのモンゴルの文化の紹介やモンゴル語講座の開催、小中学校を中心とした児童・生徒への出前講座の開催などがあります。

特にこれまで、学校や市民を対象とした各種講座、モンゴル訪問時・受入時の対応や通訳などで CIR が活躍しています。具体的な活動としては、小学校でモンゴルの文化の紹介をしたり、モンゴルの絵本の読み聞かせを行ったりしてきました。中学校においては、社会科の授業を活用し国際理解を深めることを目的に、CIR がモンゴルについて講義しました。また、市民を対象にモンゴル語講座やモンゴル家庭料理教室などを開催しました。その他、市広報紙へのモンゴルの紹介コーナーに寄稿したり、コミュニ



出前講座で小学生にモンゴルの文化を紹介する CIR



ふるさと博覧会で市民にモンゴルの文化を紹介する CIR (右)

静岡県 伊豆の国市

面積：94.71km²
人口：48,964 人（H30.6 月現在）
著名な観光地：韮山反射炉（世界文化遺産）、伊豆長岡温泉
特産品：いちご、トマト、スイカ、鮎、大根、みかん



ティ FM を活用してモンゴルの PR を行ったりしています。

こうした活動に加え、平成 28 年度から、毎年 8 月に中学生をソングノハイルハン区へ派遣する事業を行っています。これまで参加者の確保に苦慮していましたが、平成 30 年度は募集人数を大幅に上回る応募がありました。また、今年新たにモンゴル国の柔道アカデミーの小学生が日本に来て、日本での柔道を通じた交流を行うことが決定しています。CIR の活躍により、市民のモンゴルに対する理解も深まってきたものと認識しています。

一家全員で地域コミュニティに参加

現在任用している CIR は、平成 30 年 1 月から採用していますが、鳥取県で CIR として働いていた経験や在モンゴル日本大使館において勤務していた経験があることから、日本語が堪能で、職場でもすぐに打ち解けて活躍しています。また、配偶者と 4 人の子どもたちも一緒に来日したため、家族の支援も充実しており、本人の日々の活動の支えになっていると感じます。

4 人の子どもたちはそれぞれ中学 1 年生、小学

5 年生と 2 年生、保育園の年長ですが、市に外国人向けの学校がないので、日本人の子どもと同じ学校に通っています。子どもたちも最初は日本語を話すことができないので不安だったと思いますが、来日してから半年以上が経つと、学校生活や日本での生活にも徐々に慣れてきて、部活動やスポーツを通じて、日本の子どもたちとコミュニケーションも取れるようになってきました。また、CIR の配偶者も日本語を話すことができ、地域の清掃作業、地域活動や学校の行事にも積極的に参加してくれています。さらに、最近では、自動車の運転免許も取得し、隣市の企業への就職も決まりました。家族全員が市での生活を楽しみ、それぞれの生活を充実させていることで、CIR にとっても活動しやすい環境になっているのではないかと感じております。

2020 東京オリンピック・パラリンピック競技大会におけるモンゴルの柔道選手受入時には、CIR と協力して市全体で選手のサポートや応援ができる体制を整えるとともに、都市交流の覚書を締結しているソングノハイルハン区との交流もさらに充実させていきたいと思っています。



コミュニティ FM に出演する CIR

外国にルーツを持つ子どもの居場所づくりにCIRが貢献

ナターリャ・クリスチナ・ヒペイロ・アブレウ

ブラジル・ミナス・ジェライス州出身。国際交流基金日本語センターでの日本語教師の長期研修に参加し、ブラジルで日本語とポルトガル語の教師として勤務。平成26年4月から彦根市に任用され、市民環境部人権政策課に配属される。

日本人と外国人がいきいきと暮らせるまちづくり

彦根市における在留外国人数は、平成30年(2018年)4月末日現在で、中国、台湾に続きブラジルの国籍が多く、在留資格別に見ると、永住者、定住者及び日本人の配偶者でブラジル国籍の外国人が最多となっています。こうした外国人住民の定住志向の高まりに合わせて、平成11年からブラジル出身のCIRを招致し、行政サービスや市民の意識の向上を図り、日本人と外国人とがともにいきいきと暮らすことができるまちづくりを進めています。

CIRは、日本人の職員と同様に事務を分担しており、広報紙へのコラムの掲載、「FMひこね」での広報紙のニュースのポルトガル語による放送、通訳・各種相談業務、多文化共生に関する講座の講師、外国の文化の理解を広める事業のほか、外国にルーツを持つ子どもたちの支援を行う「母語教室」、「子ども多文化クラブ」の事業を受け持っています。

CIRの提案による小学校での母語教室

「母語教室」は、外国人の児童・生徒が、アイデンティティを育み、母語しか話すことができない家族と上手にコミュニケーションを取ることができるようになること、また、同じルーツを持つ仲間と過ごす居場所をつくり、学校生活での孤立を防ぐことを目的に平成26年に始まった事業で、市内でブラジルにルーツを持つ子どもが多く通学している小学校で、月2回程度、ブラジルにルーツを持つ子どもにもポルトガル語やブラジルの文化を教えています。

その小学校には1年生から6年生まで13人のブラジルにルーツを持つ子どもが在籍していますが、保護者の送迎ができないなどの理由で参加できない子どもを除き、12人が参加しています。平成28年度までは、駅前にある会議室を利用していましたが、参加率が低く、実施方法の見直しを求めら



小学校での母語教室で子どもたちと触れ合うCIR

れる中で、CIRの改善の提案により小学校で実施することになり、子どもの参加率が向上しました。

参加している子どもの環境は様々で、ポルトガル語で日常会話も読み書きもできる子どももいれば、読み書きができない子ども、どちらもできない子どももいます。そのような中、CIRは、教材を工夫するほか、勉強が苦手な子どもも遊びながらポルトガル語を話すことができるようになっていく様子などから学習の方法を考えるなど、教師の経験を生かした教室の運営を行っています。

外国にルーツを持つ子どもを孤立させない「子ども多文化クラブ」

外国にルーツを持つ子どもは、両親が仕事をしていることが多く、特に夏休みや冬休みの長期休暇中は外出することなく家の中で過ごすがちになります。また、日本で生活する中で日本文化や習慣を覚えていく一方で、自分のルーツに触れることが少なくなり、自分自身のアイデンティティを見失ってしまうことがあります。

「子ども多文化クラブ」は、そのような小中学生を対象に、学校や国籍を越えて、世界の国の文化や習慣に触れ、一緒に学習をし、地域のことを学ぶことにより、同じように外国にルーツを持つ子ども同

滋賀県彦根市

面積：196.87平方キロメートル
人口：112,847人(平成30年5月末現在)
著名な観光地：国宝・彦根城
特産品：仏壇、バルブ、近江牛、彦根梨
市のキャラクター：ひこにゃん
姉妹都市：米国ミジガン州アナーバー市
友好都市：中国湖南省湘潭市



士のネットワークづくりを進める事業で、夏休みに4回、冬休みに1回、学習支援、様々な体験活動の補助等を、市に登録している多文化共生ボランティアの方の協力を得ながら実施しています。



「子ども多文化クラブ」では子どもたちが様々な文化に触れる

CIRは、事業の計画はもちろん、講師への依頼や打合せ、会場や準備物の手配等、事業の実施に至るまでの事務を、日本人の職員とともに行っています。CIRは、ボランティア、NPOなどの団体、大学講師等様々な方と関わって仕事をしていますが、これまで4年間の活動で広がった人脈を活かして、体験活動の講師を自ら探し、依頼をすることもあります。

平成29年度は、CIRの提案により、交流の時間を増やし、子どもとスタッフ全員でお弁当を食べるランチタイムを実現し、38人の小中学生が、フィリピンの理解を深める学習、日本文化を学ぶ折り紙体験、創造性を高める焼杉工作体験等を通して、自分が通う学校以外の新しい友達を

作ることができました。

「多文化共生」という言葉が不要となる日を目指して

「母語教室」「子ども多文化クラブ」は、日本人の職員がたとえポルトガル語を話すことができたとしても、外国にルーツを持つ子どもの気持ちに寄り添って進めることは容易ではないでしょう。同じく外国にルーツを持つ一人の人間として、日本で生活しているCIRだからこそ、子どもの置かれている環境や気持ちを誰よりも理解した上で、これらの事業をより良く進めていくことが可能なのだと思います。ここで学んだ子どもたちが、将来、社会に貢献できる大人に成長することがCIRも含め私たち職員の願いです。

「ブラジルでは多文化共生が普通のこと、日本でも多文化共生が普通のこととなり、将来『多文化共生』という言葉がなくなることが本当の『多文化共生』だ」とCIRが話したことがあります。私たち日本人の職員は、目指す多文化共生について、CIRとともに考えていきたいと思っています。



CIRと一緒に焼杉工作体験

地域コミュニティ活性化と職員の異文化理解に貢献


ローダーミルク・エリカ 盛 亜莉

ローダーミルク・エリカ：米国カリフォルニア州出身。米国と日本のルーツを持つ。カリフォルニア大学サンタクルーズ校（UCSC）に通い、大学卒業後は、平成27年8月から堺市に採用され、堺市文化観光局国際部国際課に配属。
盛 亜莉（セイ・アリ）：中国江蘇省・徐州市出身。日本文化に興味を持って、連雲港市淮海工学院で日本語を専攻。卒業後は、公務員として、連雲港市にある連雲港経済技術開発区勤務。その後、日中友好交流団の一員として日本への訪問を経験する。平成29年4月から1年間、堺市文化観光局国際部国際課に配属。

堺市

面積：149.82km²
人口：833,544人
(平成30年1月1日現在の推計人口)

著名な観光地：百舌鳥・古市古墳群
特産品：自転車、敷物、刃物、注染・和ざらし、線香、昆布加工



地域コミュニティ活性化への貢献

堺市は、平成3年度（1991年度）から、海外姉妹・友好都市との交流を一層深めるとともに、市の国際化を進めることを目的として、海外姉妹・友好都市から英語圏のCIRを配置してきました。平成24年度からは、中国語圏のCIRが加わり、現在は、2名体制となっています。主な業務としては、翻訳・通訳業務、外国人賓客の接遇、ニュースレター（外国人市民向け生活情報誌）発行、生涯学習講座（小・中・高校向け出前講座）など多岐に渡ります。

市西区では、歴史的・伝統的行事のひとつである「だんじり」、「ふとん太鼓」を活用し、地域コミュニティの醸成や歴史文化の向上、そして国際交流に寄与することを目的とするコミュニティ活性化事業を行っています。この事業は、鳳・津久野地区の「だんじり」17台が参加するパレードを実施し、そこに市内及び近隣の大学等に在学している留学生を招待して、見学や交流会を開催するものです。（平成29年度：見学者約30,000人、留学生参加者数43人）

このコミュニティ活性化事業に、CIRが留学生の引率及び通訳として参加し、伝統文化・地域資源である「だんじり」の歴史や魅力についてのプレゼンテーションを行いました。自治会を中心とした地域住民との交流会では、人と人をつなぐ重要な役割を担っています。

市では、特に外国人市民と地域住民との交流機会が少なく、このような伝統文化を通じた国際交流にCIRが貢献している活用事例の一つのモデルとして、今後も外国人市民と地域社会との結び付きが深められるよう積極的にCIR活動の幅を広げていきたいと考えています。



西区だんじり集合写真

今後外国人市民と地域社会との結び付きが深められるよう積極的にCIR活動の幅を広げていきたいと考えています。

CIRならではの視点を活かす

外国人市民が増える中、平成27年度に行った消防局員を対象とした英語・中国語研修に続き、平成29年度は、子ども園の職員向け研修を実施しました。当初は、保育士と外国にルーツを持つ子どもやその保護者と会話ができるようなスキルアップを図る外国語研修を予定していましたが、CIRが企画段階で保育園での聴取りをした結果、本当に必要なことは、会話の練習や現場で活用できるフレーズ集の準備に加え、各国での育児や教育等の文化の違いを伝え、互いが理解し合うことではないかと気づきました。

例えば、日本では「子どもは風の子」として薄着をさせることもあるが、中国では、極力身体を冷やさないように厚着をさせるといった生活習慣の違いや、子どもに人気の手遊びを多言語で教えるなど、丁寧な作業を積み重ね、練りあげた研修内容となりました。研修を受けた職員からは、「日本の考え方のみ伝えるのではなく、外国籍の保護者や子どもたちの思いにしっかり寄り添いたい」などのコメントがあり、CIRでなければ、このような有意義な研修を実施することができなかったと思います。業務別研修の成果から、CIRならではの視点や経験、知識を活かすことの大切さを改めて気づくことができました。今後も事業検討時から、意見を含め、CIRが持つ力を引き出し、様々な事業を展開していきたいと考えています。

なお、平成30年度は「おもてなし研修」を実施し、平成31年度には、CIRの文化的背景を活かした「税の窓口外国語研修」（予定）を企画しています。



小学校への出前講座

多言語による生活情報の発信にコミュニティFMを活用

李 佳仁 王 麗莎

李 佳仁（イ・ガイン）：韓国出身。独学で日本語を勉強し、日本で1年間ワーキングホリデーを体験する。平成29年4月から任用。総合政策部地域振興課所属。
王 麗莎（ワン・リシャ）：中国出身。大学で日本語を専攻し、卒業後は衡水大学で日本語教師として勤務。平成30年4月から任用。総合政策部地域振興課所属。

鳥取県米子市

米子市は、山陰地方のほぼ中央に位置し、南東に国立公園大山（だいせん）、北に日本海、西にコシエの海軍歴史資料館、南にサール条約登録の中海（なかのみ）を有し、豊かな自然環境に恵まれる。四季を通じて海水浴、登山、サイクリング、スキーなど雪から山へレジャーを楽しむ環境が整う。

面積：132.42km²
人口：148,525人（平成30年6月30日現在）
特産品：白ネギ、米、梨、柿、にんじん、フロッグリー



市民、子どもたちの異文化理解に貢献する CIR

米子市は、平成3年（1991年）に中国河北省保定市と友好都市関係を、平成7年には韓国江原道束草市と姉妹都市提携を結びました。これらの都市との友好関係を円滑に行い一層の交流促進を図るため、また市民の国際意識の向上を図るとともに外国人住民の方々の住みやすい環境づくりのためにCIRを任用しています。

友好・姉妹都市との連絡調整のほか、市民向けの語学講座を開催するとともに、小学校や公民館でそれぞれの国の文化などを紹介しています。小学校の教員や公民館の職員と内容について打ち合わせ、できる限り要望に沿った内容とするよう心がけています。子どもたちからは、CIRの話聞いて驚いたことや伝統衣装を試着した感想、国旗を描いたりハングルで一所懸命に書いてくれたりしたお礼の手紙が届きます。中には小学校を訪問した後、子どもたちがCIRから学んだことや自分たちで調べたことをまとめ、CIRを招き発表することもあります。子どもたちの取組や素直な感想を見聞きするたび、CIRは感動するとともにやりがいを感じています。

コミュニティFMによる情報発信が外国人住民の生活を支える

平成27年1月から、地域コミュニティ放送局である「DARAZ FM」にて「よなご外国語インフォメーション」という番組で多言語による情報発信を行っています。毎月発行する市の広報誌から外国人住民の暮らしに関わる情報をピックアップし、韓国語及び中国語についてはCIRが翻訳して収録し、ラジオで放送しています。内容は毎月10日前後に更新され、翻訳した原稿は、DARAZ FMのホームページ（<http://www.darazfm.com/>）に掲載されています。



コミュニティFMで市の情報を伝える CIR

また、平成28年1月からは毎月第3金曜日に、ラジオ番組の生放送出演を中国人と韓国人のCIRが交互に行っています。友好姉妹都市の紹介、時節に応じた母国の行事や文化等の紹介、日頃の活動の様子、CIRの感じた米子の魅力などを伝えるとともに、イベントの告知を行っています。

外国語での生活情報の発信は、多文化共生社会の実現に向けて重要なことです。CIRが外国人の視点から外国人住民の生活に役立つ情報を発信することにより、外国人住民にとって暮らしやすい環境づくりの推進に寄与しています。



コミュニティFMに出演する CIR

CIRによる外国人住民へのボランティア活動支援で進める多文化共生のまちづくり

キャシー・ライス

米国ペンシルベニア州出身。大学で日本研究を専攻し、ワシントンDC日米協会でのインターンシップや日本での1年間の留学経験を経て、大学卒業後の平成25年8月から福山市に任用され、市民局市民部市民相談課に配属。

広島県福山市

人口:469,754人(平成30年4月末現在)
特徴:「100万本のばらのまち」として、ばらのまちづくりに取り組んでいます。
主なイベント:福山ばら祭、納の浦観光鯛網、福山夏まつり、グタリンピック、ふくのやまよこいなど



多文化共生のまちづくりと日本語ワンペアレッション

福山市のCIRは、30年近く市とふくやま国際交流協会(事務局:福山市市民相談課内)で活動しています。市では、翻訳・通訳、親善友好都市との連絡・調整などの業務に、協会では、協会会員向けの英会話サロン、イベントの企画・実施、英語ニュースレター・チラシ作成、多文化共生のまちづくり事業などに携わっています。

協会では、多文化共生のまちづくりの事業の一つとして「日本語ワンペアレッション」を実施しており、CIRはそのコーディネート業務やボランティアの養成を担っています。

この「日本語ワンペアレッション」制度では、外国人住民1人(場合によっては2人)に対して、1人の日本人ボランティアをペアリングし、日本語を教えています。仕事などの関係で地域の日本語教室に参加できない人、または教室での授業内容にまだついていけない初級レベルの人がこのサービスを利用しています。

ボランティアは、「ボランティア登録」の申請時に、興味のある項目(日本語支援以外にも、ツアーガイド、イベントアシスタントなどの項目あり)と時間帯を選んでもらいます。また、外国人住民には、勉強したいこと、可能な時間帯、交通手段などを申込書に記入してもらい、1か月以内に日本人のボランティアとのペアリングをします。時間帯や相性に配慮しながらペアリングを調整し、事務局の窓口にて顔合わせをした上でレッスンを始めます。CIRは、この顔



配属されている市民相談課は、市役所1階にあり、多くの市民と交流している

合わせの際のコミュニケーションのサポートや外国人住民への英語での制度説明で活躍しています。外国人住民と日本人ボランティア双方の負担にならないよう、レッスンの会場は図書館や市役所の支所などの公共の施設を使っています。平成30年(2018年)6月末現在、28組が活動しています。



日本語ワンペアレッションの顔合わせにて流れを説明

CIRによるボランティアの養成

市では、外国人住民が増加しているものの、日本語指導を行う協会のボランティア数は不足しています。より多くの協会会員がボランティアとして活動できるよう、「ボランティアのための英会話サロン」を今年4月から始めました。そこでは、CIRが「市についての英語紹介」、「交通など生活情報の英語説明」、「外国人住民への支援」等について、日本語支援だけでなくボランティアガイドなどにも使える技術を教えています。

また、協会は平成28年度から「福山多文化共生大学」の事業を始めており、多文化共生のまちづくりや日本語支援の基礎を市民に紹介しています。CIRは運営事務に従事しながら受講し、多文化共生についても勉強しています。市はCIRの活動を通じて、誰もが住みやすいまちづくりを目指しています。



「ボランティアのための英会話サロン」にて指導

4人のCIRが支える多言語化と異文化理解

辛 恵珍 アン・ヴィシェヴィアンスキ ジョナサン・マッカーリー 唐 思齊

辛 恵珍(シン・ヘジン): 韓国プジョン市出身。平成25年から平成30年まで5年間香川県国際課に勤務。瀬戸内に浮かぶ島をほぼ制するほど瀬戸内を愛していた。茶道も嗜む素敵な女性。
アン・ヴィシェヴィアンスキ: 米国ミシガン州出身。平成28年から平成30年まで香川県国際課に勤務。豆腐を愛する和風な女性。日本語のタジャレを愛し、笑顔の絶えない素敵な女性。
ジョナサン・マッカーリー: 米国オネゴ州出身。平成29年から1年間、香川県国際課で勤務。寡黙だが博学で、時に示される知識量には驚かされた。平成30年からはALTとして活躍中。
唐 思齊(トウ・シセイ): 中国陝西省安康市出身。平成29年から1年間、香川県国際課で勤務。語学指導の力は抜群。ユーモアあふれる明るい性格で、誰からも愛される素敵な女性。

香川県

面積:1,876.77km²
人口:962,054人
有名な観光地: 栗林公園、小豆島、金刀比羅宮、直島
特産品: オリーブ、盆栽、ニット手袋、うどん



インバウンド時代を迎え撃つ

香川県は、国際化を推進していくため昭和62年(1987年)にJETプログラムが始まると同時に、英国とオーストラリアから計2名のCIRを採用しました。以降、世界各国からCIRを招聘し、ここ10年は、英語圏から2名、中国・韓国から1名ずつの交流員4名体制を維持しています。

CIRの仕事のうち、一番大きなウエイトを占めているのが翻訳作業です。知事の文書や挨拶文などに限らず、道路標示や各地のパンフレットなど、実に様々な場面で活躍しています。平成29年に香川で宿泊した外国人の延べ人数は48万人を超え、全国でもトップクラスの伸び率となっています。空港の国際路線の拡充や、今や世界的にも評価されている瀬戸内国際芸術祭など、観光資源のプロモーションの成果が現れたものと考えていますが、その裏では、県内各地の観光地をはじめ、駅やフェリー乗り場などの看板やパンフレットの多言語化に取り組んだCIRの活躍があったことを忘れてはいけません。

「出会い・ふれあい・発見隊」と多文化共生

県内を訪れる外国人が増えるとともに話題になるのが、多文化共生というキーワードです。学校現場や様々な場面で、いかに互いを理解し合えるかが議論的になっています。そこで県教育委員会では平成26年から現在の「豊かな人権感覚を育てる事業」を始めました。県内の小・中・高校生や特別支援学校の生徒が「出会い・ふれあい・発見隊」のメンバーとなり、豊かな体験を通して人権感覚を高め、自分の生き方を豊かに創りあげていくための力を身に着



CIRによる異文化理解講座の様子

けるのが目標です。平成28年からは、世界の国々との共通点や相違点を知り、その結果、偏見を持つことなく、互いの国の文化や伝統を尊重しようとする気持ちを高めさせたいとの思いから、CIRによる異文化理解講座も加えました。平成29年の異文化理解講座には、米・中・韓のCIR4名が参加し、それぞれの国についての紹介や、言葉遊び、クイズなどで子どもたちとふれあいました。また、一緒にうどんを作ったり、特別支援学校の生徒や卒業生を中心に結成された「でだけ隊」によるよさこい踊りの披露に参加したり交流を重ねました。髪の毛の色が違う人、話す言葉が違う人、体に障害がある人もいない人も、みんなで同じ時間を共有し互いを思いやる、これぞまさに多文化共生の第一歩ではないでしょうか。参加した子どもたちからは、「アメリカ、韓国、中国に行ってみたい!」「国ごとで文化が異なり、同じアメリカの中でも州が変われば食べ物も変わることを知り、新しい発見ができました」などの感想を頂きました。子どもたちの視野を広げるお手伝いをCIRができたことを嬉しく思います。同時に、CIRからも「障害のある子どもたちが一生懸命よさこいを踊っている姿を見て心を打たれた」などの感想があり、子どもたちとCIR双方に良い効果が出ています。



「でだけ隊」によるよさこい踊りの披露

CIRと香川県の今後

ますます増えるであろう外国からの来県者、ますます変容してくるであろう社会の姿。香川県は日本で一番小さな県ですが、大きな成長を遂げられるように、そして、県としての視野をますます広げられるように、CIRと一緒に努力を続けていきます。